

漆

漆とは何か？

What is Urushi ?

これが漆です。 This is Urushi.

- *漆のはじまり
- *漆の樹
- *漆の樹の分布
- *漆の特徴
- *漆の成分
- *漆の特性
- *漆の欠点
- *漆その他の用途
- *漆の精製
- *漆の種類
- *漆器の出来るまで

これが漆です

(漆のはじまり)

漆とは、漆の木から採取した樹液の事で、天然塗料の中でもっとも優れた特性を持っています。中国では紀元前4000年ごろから漆を使っていたともいわれ、日本においても福井県島浜貝塚から縄文時代前期（約5500年前）に使われた漆塗の櫛やお盆が出土しています。

漆とは、「うるわしい」「うるおす」という言葉が由来といわれ、外国では漆器のことをジャパンと呼んでいます。

最初は接着を目的に狩りの道具・武具等に使用されていました。

その後、漆の持つ保護耐久性・塗料としての美点に気付き創意工夫を加え装飾の文化へと発展していきました。

(漆の樹)

漆の樹は高さ10メートル、太さ10センチメートルにもなる落葉樹で、葉は4, 5月ごろに発芽し、6月ごろ黄緑の花をつけ、秋になると紅葉します。



(漆の樹)

(漆の採取)

漆は、漆の樹の幹部に傷をつけて採取します。
6月から11月ごろまでの期間に少しずつ樹に傷をつけて、
樹液（生漆）を採るのが日本式です。

生育後14～15年くらいの樹で採取期間中約200グラム
しか採る事が出来ません。

(漆の成分)

漆液はウルシオール、ゴム質、含窒素物、水分等から
構成
されています。

主成分はウルシオールとラッカーゼでウルシオールが
漆の
持つ特性を左右します。



(漆の採取)

ウルシオール含有率が高いほど上質の漆とされています。

ウルシオールを含んでいる割合は、日本産が一番多く、次いで中国産、ベトナム産となります。

(漆の特性)

漆はペンキが乾くのとは本質的に違い、漆が乾くには乾燥させるのではなく、適度な温度と湿度が必要です。(温度15~20度、湿度70%~90%)

その状態の中で成分中のウルシオールとラッカーゼが化学反応し塗膜をつくります。

漆は1回固まると酸、アルカリ、アルコールや高熱にも耐える強靱な塗膜をつくります。

接着力を有し他の塗料とは極めて大きな違いでもあります。

漆を溶かすには水を用いず、テレピン油、へんのう油、石油等を使用します。

水を用いても溶けず逆に乾燥が早まります。

(漆の欠点)

ウルシオールの持つ毒性により漆が皮膚に直接接触るとかぶれます。(全くかぶれない人もいます)

かぶれると強烈なかゆみを伴い、水疱が出来たり赤くはれ上がります。

しかし菌が入らず化膿しなければ跡形も無くきれいに治ります。

また一度かぶれるとかぶれにくくなるという免疫作用もあります。

(漆その他の用途)

薬用として胃酸過多、強精剤、手足のアカギレにも良いといわれます。

食用として漆の実の表皮を取り去り、核だけを煎って細かい粉状にしたものをコーヒーのように飲む事もできそうです。

(漆の精製)

漆の樹から採取した漆液からゴミ、不純物をろ過し、徐々に水分を除き、乾燥度、肉持ち、光沢、透明度など塗料としての目的に応じた精製加工がなされます。
この作業を「ナヤシ」「クロメ」と呼びます。

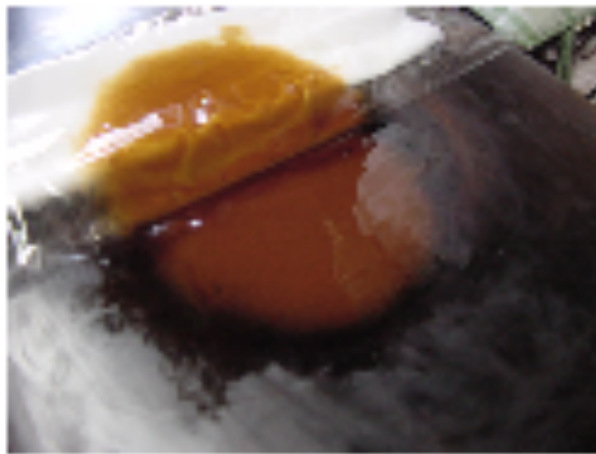


(漆の清生 クロメ)

(漆の種類)

漆の樹から採取された漆液をろ過したものを生漆と呼び、その生漆からさらに水分を蒸発させて透漆をつくり、更に鉄粉を混ぜ黒漆をつくります。

これら大きく分けて三種類の漆を素に塗装加飾の作業に入ります。



(生漆)



(透漆)



(黒漆)

I.

漆器の出来るまで)

素地 (木地)人間に例えると骨格
他に陶器、金属も使用。
古代では動物の皮も使われていた。

挽物.....木を口ク口で回転させくり抜く。
主に茶器、椀等

指物.....板をつなぎあわせてつくる。
主に硯箱等の箱物

曲物.....板を湯に浸して曲げてつくる。



(挽物)

2.

下地人間に例え
ると筋肉、臓器

生漆で木地を固め布を貼って
補強をし、
(漆との粉と水を混ぜた粘土
状のもの) を
へらでつけ、研いで形を整え
る。

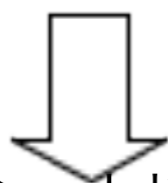


(下地)

3.

塗人間に例えると肌、
皮膚

下地の上に塗りの肌を良くする為
に下塗り、
中塗りを入れ、その後、上塗りに入
る



柿合塗、布目塗、木地溜塗
溜塗、一閑塗、呂色塗
真塗



(塗)

加飾（蒔絵）人間に例えると化粧、ファッション
（他に沈金、蜜陀絵等有り）

蒔絵

.....一番基本的な技法

漆で紋様を描き金粉を蒔きつけ
その上に漆を塗り込み研ぎ出す

.....盛り上がった蒔絵

錆、炭粉、漆、銀粉等を使用し、盛り上げの土台をつくった後
漆で肌をならして蒔絵を施す

研出蒔絵.....中塗り段階で蒔絵をして、その上に漆を塗り、全体に研いで紋様を
浮かび上がらせる技法
蒔絵の源流といわれる

.....金、銀粉の他に、金貝、切金、螺鈿（貝）等も使用。



（蒔絵）



(平蒔絵)



(高蒔絵)



(研出蒔絵)